中学校第２学年　学級活動学習指導案

Dモデル

１　題材名　がん患者への理解と共生　（外部講師：がん経験者、医療関係者）

２　本時のねらい

　　自分や身近な人が「がん」になった場合を想定した意見交換を通して、保健学習（がんの疾病概念や予防、早期発見の大切さ等）をもとに自分にできることを考えることができる。

（思考・判断・表現）

３　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程 | 学習内容　「・」予想される生徒の思考 | ◇教師の指導　※留意事項 |
| 導入 | １　課題づくり・講師紹介  〇自分が「がん」と診断されたら知りたいかどうか、理由を含めて考える。（グループでの交流）  ・種類によっては、早期発見で９５％以上が治るから、早く治療するためにも知りたい。  ・自分ががんになるなんて考えたこともなかった。とても怖いし、不安だし、ショック。知りたくないというか、受け止める自信がない。   |  | | --- | | 自分や身近な人が「がん」になったとき、自分や身近な人のためにできることを考えよう。 | | ◇生涯のうち２人に１人が何らかの「がん」になると推計されるなど、既習の内容を押さえたうえで「もし自分が『がん』と診断されたら？」と問うことで、自分事として主体的に考えることができるようにする。  ※外部講師（専門医・がん経験者）を紹介し、漠然とした不安について一緒に考えてもらえることを伝えることで、不安を和らげる。 |
| 展開 | ２　家族や身近な人が「がん」と診断されたら、どのように関わっていくか、理由を含めて考える。（グループおよび全体での交流）  〔グループ〕→〔全体〕  ・できるだけ、普段通りの生活ができるように接する。  ・自分ができることを増やして、負担を減らして、治療に専念できるようにする。とにかく支えになりたい。  ・私も～さんと同じことを考えたな。  ・そうか、確かに自分だったら～してほしいと思うな。  ３　がん経験者や専門医の話を聞く。  ・「がん」だとわかったときには、～だと思うんだな。  ・もし私の家族が「がん」だとわかったら、～をして支えになりたい。  ４　自分が「がん」と診断されたら、周りの人や家族に伝えるか・伝えないか考える。（グループ及び全体での交流）  〔グループ〕→〔全体〕  ・心配をさせたくないから、黙っていようかな。  ・逆の立場だったら支えになりたいと思う。だからこそ、私は伝える。  ・一人で抱えることは、あまりにも不安が大きくて考えられない。家族で一緒に治療したい。 | ◇「支えたい」「話を聞いてあげたい」等の具体的な行動を話している生徒に対して、その理由を問いかけることによって、内面にある思いに向き合うことができるようにする。  ※身近な人を「がん」で亡くしたり、現在、家族が闘病中の生徒がいたりする場合、様子を観察するなど配慮する。  ◇映像教材「がんと生きる」を視聴し、がん経験者の思いを知ることで、自分や身近な人が「がん」になったとき、自分や身近な人のためにできることを具体的に考えることができるようにする。  ※がん経験者にお話をしていただける場合、  　①「がん」だとわかったときのこと  　②治療のときに支えになったこと  　③今、大切にしていること  　の３点について話をしていただく。 |
| まとめ | ５　振り返り（学びをつなげる）  〇本時を振り返り、自分や身近な人ががんと診断された場合に、自分にできそうなことをまとめる。  ☞治る可能性がゼロではないから、その可能性を高め、治療に専念できるように、～をして、不安や負担を軽くしてあげたい。  ☞まずは、家族とがんについて話をして、がん検診や健康診断を必ず受けるように説得したい。 | ◇外部講師（がん経験者・専門医）から感想や助言をいただく。   |  | | --- | | 【評価規準】思考・判断・表現  自分や身近な人ががんと診断された場合にどう行動するかを、保健体育科での学習をもとにワークシートに記述したり、発表したりしている。 | |